美術教育における〔共通事項〕の受容と課題
―アンケートによる現状調査と分析―

久保村　里正*

Acceptance of and Problems with “Common Topics” in Arts Education: Current Conditions According to a Survey and an Analysis

Risei KUBOMURA

要旨　〔共通事項〕は，学習指導要領において主に色や形やイメージについての教育とされているが，内容の高度化・専門化を企図したものではなく，A 表現，B 鑑賞と同列に設けられている教科の内容ではない．しかし〔共通事項〕は専門的な内容を含んでおり，教員にとって，その内容を簡単にわかりやすく指導するということは困難である．また〔共通事項〕は，平成20年改訂の指導要領で新しく設けられた内容であるが，その指導については確立されておらず，標準的な指導の方法の確立が求められている．そこで小論では，美術教育における〔共通事項〕の標準的指導法の開発を視野に入れた調査を行った．結果，〔共通事項〕に関しては，苦手，やや苦手とする者の合計が20％に対して，得意，やや得意とする者が13％となり，苦手とする者の方が多いという結果となった．また，どちらともいえないという回答が60％と非常に高く，〔共通事項〕が全くわからない訳ではないものの，〔共通事項〕の指導の標準が分からないという現状が明らかとなった．また色についての教育は，全質問項目の中でも最も得意とする者が多い結果となった．これは色の指導に関しては，理論的な教育内容および指導が確立されており，指導がしやすいといった理由によるものだといえる．今後，〔共通事項〕の標準的指導法の開発に関しては，教員に対する理解が進んでいる色彩の教育を中心に行うのが望ましいと考える．

キーワード：美術教育　学習指導要領　〔共通事項〕　標準的指導法

はじめに

小論の主題となっている〔共通事項〕とは，平成20年の学習指導要領改訂で設けられた，〔A 表現〕と〔B 鑑賞〕の２領域を横断する教科内容であり，平成29年に改訂された学習指導要領においても，同様に各学年の内容としてA 表現とB 鑑賞に附されている．

この〔共通事項〕は，学習指導要領では主に色や形やイメージについての教育とされており，昭和43年の学習指導要領の改訂で導入が試みられた系統的学習の一部分が，その原型となっているかと思われる．しかし〔共通事項〕は，あくまでも図画工作科・美術科の範疇での教育であり，内容の高度化・専門化を企図したものではないとされており，A 表現，B 鑑賞と同列に設けられている教科の内容でもない．[1)]

しかし〔共通事項〕で扱われる内容は，従来の〔A 表現〕と〔B 鑑賞〕の領域の中で扱われていたことを考えれば，充分に専門的な内容であり，小・中・高等学校の教員にとって，その内容を簡単にわかりやすく指導するということは，難しいことだと考えられる．また〔共通事項〕は，平成

* くぼむら　りせい　文教大学教育学部学校教育課程美術専修

20年改訂の指導要領で新しく設けられた内容であるが，その指導については確立されているとは言い難く，そういう意味では〔共通事項〕の標準的な指導の方法（〔共通事項〕の標準的指導法）の確立が求められている．

Ⅰ　研究の概要

小論は「ディジタルアーカイブによるイメージの視覚化プロセスの類型化と共通事項の標準的指導」[2)]を大きな主題とする研究の一環として，図画工作科および美術科における「〔共通事項〕の標準的指導法」の開発を視野に入れた，図画工作科・美術科における〔共通事項〕に関する調査を行う．

1　研究目的

「ディジタルアーカイブによるイメージの視覚化プロセスの類型化と共通事項の標準的指導」の研究では，図画工作科・美術科における〔共通事項〕に関する調査を始めるにあたり，「共通事項の成立に関する歴史的考察」，「教科書からの分析」，「アンケートからみる共通事項の受容」の３つの視点を定めた．

まず最初の視点である「共通事項の成立に関する歴史的考察」については，先行研究「美術教育における〔共通事項〕の歴史と意義 美術教育における基礎」[3)]において，昭和43年の学習指導要領と平成20年の学習指導要領の歴史的な繋がりと相違点を明らかにした．

そして２つめの視点である「教科書からの分析」については，先行研究「小学校図画工作科における（共通事項）の現状と課題 図画工作科教科書からの分析」[4)]において，開隆堂出版株式会社が発行した教科書を調査し，〔共通事項〕の現状と今後の課題を明らかにした．

そこで小論では，以上の先行研究を踏まえ，図

美術の指導に関するアンケート

美術教育活性化のための図画工作科・美術科の指導に関するアンケートです。ご協力お願いいたします。

■ 図画工作科もしくは美術科の指導についておたずねします。

Q１．図画工作科・美術科の指導は得意でしょうか。（○は１つだけ）
１．苦手　２．やや苦手　３．どちらともいえない　４．やや得意　５．得意　６．わからない

Q２．表現の指導は得意でしょうか。（○は１つだけ）
１．苦手　２．やや苦手　３．どちらともいえない　４．やや得意　５．得意　６．わからない

Q３．絵画の指導は得意でしょうか。（○は１つだけ）
１．苦手　２．やや苦手　３．どちらともいえない　４．やや得意　５．得意　６．わからない

Q４．彫刻の指導は得意でしょうか。（○は１つだけ）
１．苦手　２．やや苦手　３．どちらともいえない　４．やや得意　５．得意　６．わからない

Q５．デザインの指導は得意でしょうか。（○は１つだけ）
１．苦手　２．やや苦手　３．どちらともいえない　４．やや得意　５．得意　６．わからない

Q６．工芸の指導は得意でしょうか。（○は１つだけ）
１．苦手　２．やや苦手　３．どちらともいえない　４．やや得意　５．得意　６．わからない

Q７．鑑賞の指導は得意でしょうか。（○は１つだけ）
１．苦手　２．やや苦手　３．どちらともいえない　４．やや得意　５．得意　６．わからない

Q８．共通事項の指導は得意でしょうか。（○は１つだけ）
１．苦手　２．やや苦手　３．どちらともいえない　４．やや得意　５．得意　６．わからない

（表.１）アンケート質問紙（１枚目）

■ 共通事項の指導についておたずねします。

Q９．色についての指導は得意でしょうか。（○は１つだけ）
１．苦手　２．やや苦手　３．どちらともいえない　４．やや得意　５．得意　６．わからない

Q10．形についての指導は得意でしょうか。（○は１つだけ）
１．苦手　２．やや苦手　３．どちらともいえない　４．やや得意　５．得意　６．わからない

Q11．イメージについての指導は得意でしょうか。（○は１つだけ）
１．苦手　２．やや苦手　３．どちらともいえない　４．やや得意　５．得意　６．わからない

■ ご自身についておたずねします。

Q12．性別を教えて下さい。（○は１つだけ）
１．男性　２．女性

Q13．所有する教員免許を教えて下さい。（○はいくつでも）
１．幼稚園教諭免許状　２．小学校教諭免許状　３．中学校教諭免許状（美術）
４．高等学校教諭免許状（美術）　５．その他

Q14．勤務先を教えて下さい。（○は１つだけ）
１．幼稚園　２．小学校　３．中学校　４．高等学校　５．その他

Q15．教育歴（勤務年数）を教えて下さい。
□ 年

ご協力ありがとうございました。

（表.２）アンケート質問紙（２枚目）

画工作科および美術科における〔共通事項〕の標準的指導法の開発を進めるために，３つめの視点である「アンケートからみる共通事項の受容」として，〔共通事項〕の標準的指導法の基本構造を定めることを目的とした現職教員を対象するアンケートを計画した．

２　調査方法

本研究では，図画工作科・美術科における〔共通事項〕の現状を調査する方法として，教員を対象とした質問紙によるアンケート調査を計画した．アンケートの質問紙を作成するにあたっては，2015年に５名の小中学校の教員に対して予備調査を行い，そこから得られた回答をフィードバックさせ質問項目の検討を行い，指導に得手不得手に関する事項，共通事項の指導に関する事項，回答者自身に関する事項の計15項目からなる本調査の質問紙「美術の指導に関するアンケート」（表.１）（表.２）を作成した．

そして2016年と2017年に本調査を実施し，その回答に対して分析を行った．結果の集計については，Ｑ１からQ11までの質問項目の回答に対して，それぞれの得意度を「苦手」を＋１，「やや苦手」を＋２，「どちらともいえない」を＋３，「やや得意」を＋４，「得意」を＋５，「わからない」を＋０として単純集計を行い，それぞれの質問に対して，平均及び最頻値を求めた．

Ⅱ　調査結果

（表.１）（表.２）で示したアンケート質問用紙を用いて，本調査を2016年度から2017年度にかけて実施した．そして，2016年度には49件，2017年度には45件の回答が得られ，合計で94件の回答数となった．各質問に対するアンケート結果は，（表.３）の通りである．尚，「Q13. 所有する教員免許を教えて下さい．（○はいくつでも）」については，複数回答となっていることから，今回の表では空欄としている．

整理番号	Q1. 図画工作科・美術科の指導は得意でしょうか。	Q2. 表現の指導は得意でしょうか。	Q3. 絵画の指導は得意でしょうか。	Q4. 彫刻の指導は得意でしょうか。	Q5. デザインの指導は得意でしょうか。	Q6. 工芸の指導は得意でしょうか。	Q7. 鑑賞の指導は得意でしょうか。	Q8. 共通事項の指導は得意でしょうか。	Q9. 色についての指導は得意でしょうか。	Q10. 形についての指導は得意でしょうか。	Q11. イメージについての指導は得意でしょうか。	Q12. 性別を教えて下さい。	Q13. 所有する教員免許を教えて下さい。	Q14. 勤務先を教えて下さい。	Q15. 教育歴（勤務年数）を教えて下さい。	調査年度
1	4	4	4	4	3	3	3	4	4	3	3	2		2	8	H28
2	2	2	3	1	1	1	1	1	3	3	3	2		5	12	H28
3	4	3	4	4	3	2	3	2	4	3	3	2		3	9	H28
4	2	1	1	1	1	2	1	2	2	1	1	2		5	5	H28
5	3	3	2	2	4	3	3	3	4	3	3	2		2	12	H28
6	3	3	4	2	4	3	3	3	4	3	3	2		5	15	H28
7	2	1	2	2	2	2	3	2	3	2	1	1		3	32	H28
8	4	3	4	3	3	3	4	3	4	3	4	2		2	2	H28
9	3	5	3	5	5	5	1	3	5	5	1	1		2	31	H28
10	4	3	3	2	3	3	3	3	3	4	3	2		5	6	H28
11	5	4	5	6	6	6	3	6	5	4	5	2		2	10	H28
12	3	3	3	6	6	6	6	6	3	3	3	2		5	11	H28
13	4	1	2	1	2	4	6	3	4	4	2	2		2	12	H28
14	4	4	4	3	4	3	3	3	4	3	3	2		2	30	H28
15	4	4	4	3	4	3	3	3	4	4	4	2		2	9	H28
16	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2		2	9	H28
17	3	2	1	6	6	6	6	6	2	2	2	2		1	13	H28
18	5	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	2		2	11	H28
19	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	2		5	6	H28
20	1	2	2	2	1	1	1	3	1	1	1	2		2	10	H28
21	5	5	5	3	4	4	4	5	5	4	4	2		5	25	H28
22	1	3	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2		2	20	H28
23	6	3	3	6	3	6	6	6	6	6	6	2		5	7	H28
24	2	2	2	2	2	2	1	3	3	2	2	2		2	10	H28
25	3	3	3	2	3	3	3	3	4	3	3	2		2	31	H28
26	1	1	2	1	3	1	2	3	3	2	2	2		2	30	H28
27	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2		5	17	H28
28	2	3	3	1	6	1	3	3	3	3	3	2		1	10	H28
29	1	1	1	1	1	2	1	1	2	1	2	2		3	13	H28
30	3	3	3	3	3	3	4	3	6	6	4	2		4	7	H28
31	3	3	3	6	6	6	3	3	3	3	3	2		4	10	H28
32	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	11	H28
33	2	3	1	2	2	2	3	3	2	2	3	1		2	11	H28
34	4	4	4	3	4	3	3	3	4	4	4	2		1	8	H28
35	3	4	3	3	3	3	2	3	4	4	3	2		5	9	H28
36	3	3	3	1	1	3	3	3	3	3	3	2		5	6	H28
37	2	3	2	3	3	3	2	3	3	3	4	2		2	14	H28
38	2	4	2	2	2	3	3	3	1	1	4	2		2	16	H28
39	3	2	3	6	6	6	6	3	3	3	3	2		1	1	H28
40	4	3	4	3	3	4	2	3	3	3	3	1		2	10	H28
41	3	2	3	4	3	4	3	3	3	4	2	2		5	1	H28
42	3	2	2	1	1	1	1	3	1	1	1	2		5	13	H28
43	4	4	4	2	1	1	2	3	4	3	3	2		5	20	H28
44	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2		2	5	H28
45	4	4	4	3	5	4	2	2	3	2	2	1		5	17	H28
46	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	2		2	11	H28
47	2	3	3	1	3	3	3	3	3	3	6	2		2	7	H28
48	4	4	4	3	3	3	4	2	2	2	2	2		2	21	H28
49	3	3	3	2	4	5	4	6	2	2	2	1		4	23	H28
50	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	1		2	8	H29
51	3	3	3	2	2	3	4	3	4	3	3	2		2	10	H29
52	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2		2	10	H29
53	6	3	3	3	6	6	6	3	6	6	3	2		5	1	H29
54	2	2	4	3	4	2	4	4	4	3	2	2		2	10	H29
55	2	2	2	2	2	2	2	3	4	4	3	2		2	10	H29
56	3	3	3	3	4	2	3	3	3	4	3	2		2	8	H29
57	3	3	4	3	2	3	1	6	4	3	2	2		2	3	H29
58	2	3	3	2	2	3	3	2	4	3	3	2		2	11	H29
59	3	3	2	2	3	3	3	3	3	3	3	2		1	5	H29
60	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	1		2	6	H29
61	3	4	4	2	4	4	3	4	4	4	3	2		2	15	H29
62	4	3	3	2	3	4	2	3	3	3	2	2		2	32	H29
63	3	2	3	2	2	2	3	3	3	3	2	2		2	31	H29
64	5	5	5	4	5	5	5	5	5	5	5	2		3	7	H29
65	5	4	4	3	4	5	4	4	4	3	5	2		4	6	H29
66	4	4	4	3	4	3	3	3	3	4	3	2		3	7	H29
67	4	3	4	3	3	3	6	3	4	3	3	2		2	10	H29
68	4	4	4	4	4	4	3	2	3	3	3	2		2	12	H29
69	2	2	1	4	2	3	5	3	4	2	3	2		2	9	H29
70	3	3	3	3	3	2	2	3	3	3	4	2		2	30	H29
71	3	3	4	2	2	3	3	3	4	3	3	2		2	9	H29
72	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2		2	33	H29
73	3	3	4	4	3	3	3	3	4	3	2	1		2	10	H29
74	4	4	4	3	4	4	4	3	4	4	4	2		5	35	H29
75	5	5	5	4	4	4	5	4	5	5	4	1		4	12	H29
76	5	5	5	4	4	4	5	5	5	5	4	1		4	12	H29
77	3	3	3	3	2	2	4	3	3	3	3	1		5	23	H29
78	3	3	3	3	2	2	4	3	3	3	3	2		5	23	H29
79	4	3	4	6	6	6	1	3	4	3	2	2		2	8	H29
80	5	4	4	5	4	5	4	4	4	4	3	1		3	28	H29
81	4	4	5	4	4	4	5	4	4	4	5	1		2	9	H29
82	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	1		2	6	H29
83	3	4	4	4	3	5	3	3	5	4	5	2		3	22	H29
84	4	4	4	3	3	3	4	3	4	4	4	2		2	11	H29
85	2	3	3	2	3	3	2	3	3	3	4	2		5	5	H29
86	3	2	2	2	2	2	2	3	3	3	2	2		5	9	H29
87	5	5	4	4	5	3	5	5	4	4	4	2		2	3	H29
88	2	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	1		2	4	H29
89	4	4	3	5	3	4	4	3	4	3	3	1		2	3	H29
90	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	2	1		2	1	H29
91	4	1	2	1	2	3	6	3	4	3	2	2		2	9	H29
92	3	3	2	2	3	2	3	2	3	2	2	2		2	8	H29
93	2	2	2	2	2	2	3	6	3	6	6	2		2	13	H29
94	3	3	3	2	3	3	4	3	4	3	2	2		1	7	H29
平均	2.85	2.78	2.78	2.26	2.60	2.60	2.45	2.66	2.98	2.66	2.62				13	
最頻値	3	3	3	1	3	3	3	3	3	3	3	2		2		

（表.３）アンケート結果

Ⅲ　考察

本章では前章で示したアンケートの結果（表.3）を，単純集計（表.4）をすると共に，グラフを用いて考察をおこなう．また必要に応じて各質問からクロス集計を行い，相関関係による傾向の分析を行う．

回答番号	Q1. 図画工作科・美術科の指導は得意でしょうか。	Q2. 表現の指導は得意でしょうか。	Q3. 絵画の指導は得意でしょうか。	Q4. 彫刻の指導は得意でしょうか。	Q5. デザインの指導は得意でしょうか。	Q6. 工芸の指導は得意でしょうか。	Q7. 鑑賞の指導は得意でしょうか。	Q8. 共通事項の指導は得意でしょうか。	Q9. 色についての指導は得意でしょうか。	Q10. 形についての指導は得意でしょうか。	Q11. イメージについての指導は得意でしょうか。	Q12. 性別を教えて下さい。	Q13. 所有する教員免許を教えて下さい。	Q14. 勤務先を教えて下さい。
1	9	11	11	15	13	11	14	7	7	10	10	19		7
2	17	16	16	27	18	19	16	12	10	14	23	75		53
3	34	39	33	28	31	35	33	56	33	42	37	0		7
4	23	22	28	14	20	15	17	8	34	20	16	0		6
5	9	6	6	3	4	6	6	4	7	4	5	0		21
6	2	0	0	7	8	8	8	7	3	4	3	0		0
計	94	94	94	94	94	94	94	94	94	94	94	94		94

（表.４）アンケート集計結果

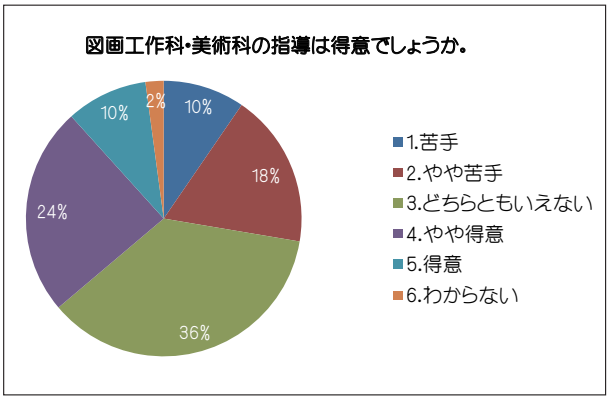
1　各質問項目からの考察

本節では各質問項目の結果をグラフ化し，それぞれに考察を行う．

1）図画工作科・美術科の指導

図画工作科および美術科の指導を得意としているかについての質問である．（図.１）

苦手，やや苦手とする者の合計が28％であるのに対して，得意，やや得意とする者が34％となり，得意とする者の方が多いという結果となった．但し，どちらともいえないと答えた者が36％と最も多く，得意とは言えないが，苦手とする程でもないというのが，多くの教員の意識だといえる．

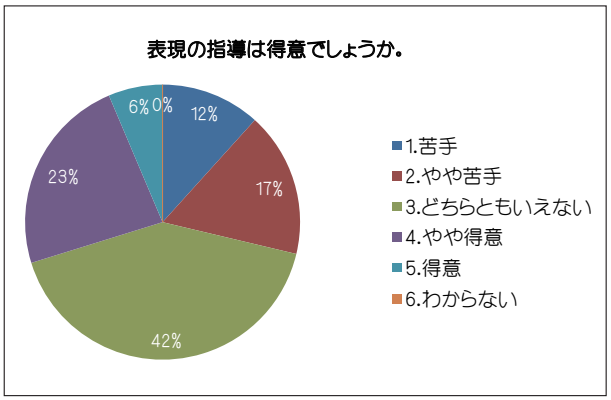


（図.１）図画工作科・美術科の指導

2）表現の指導

表現を得意としているかについての質問である．（図.２）

表現は作品制作に関わる内容であるが，苦手，やや苦手とする者の合計が29％であるのに対して，得意，やや得意とする者が29％と，同数になった．どちらともいえないという回答が42％とやや多い数値となった．これは表現が絵画，彫刻，デザイン，工芸といった内容を含んだ総称であるためで，絵画，彫刻，デザイン，工芸のいずれかが得意であったり，苦手であったりすると，どちらともいえないという回答になるからだと思われる．



（図.２）表現の指導

3）絵画の指導

絵画を得意としているかについての質問である．（図.３）

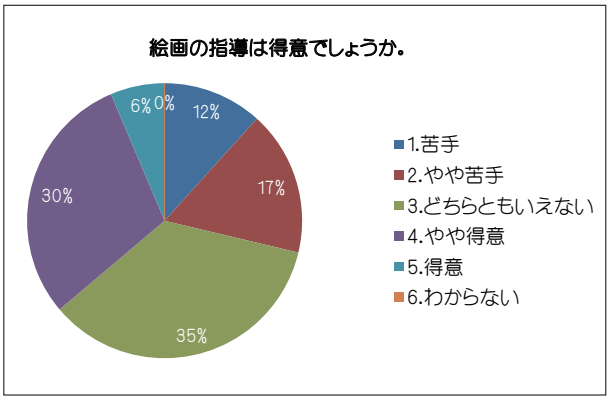
絵画の指導については，苦手，やや苦手とする者の合計が29％であるのに対して，得意，やや得意とする者が36％となり，得意とする者の方が多いという結果となった．この様に他の領域より絵画の得意度が高いのは当初の予想通りである．

このような結果は図画工作科の図画偏重の傾向によるもので，図画科と工作科が芸能科として統合され，第二次世界大戦後に図画科に工作科が統合され図画工作科として独立をしたという歴史的背景から鑑みると，妥当な結果だといえる．

また逆に考えるのならば，図画の偏重は絵画の指導を比較的得意とする教員によって生み出された結果だともいえるだろう．

このような状況に対して平成29年に改正された学習指導要領では，以下のように記されており，図画偏重になりがちである図画工作科の是正を図っている．

授業時数については，工作に表すことの内容に配当する授業時数が，絵や立体に表すことの内容に配当する授業時数とおよそ等しくなるように計画すること．[5)]

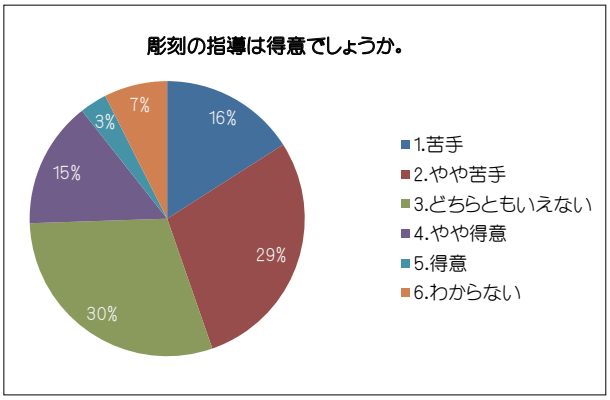


（図.３）絵画の指導

４）彫刻の指導

彫刻を得意としているかについての質問である．（図.４）

彫刻の指導については，苦手，やや苦手とする者の合計が45％であるのに対して，得意，やや得意とする者が18％となり，苦手とする者の方がかなり多いという結果となった．彫刻は絵画と並び「絵や立体に表す」とされているが，45％というのは全ての質問中の中でもトップであり，得意な者が多い絵画と比べると非常に対称的である．

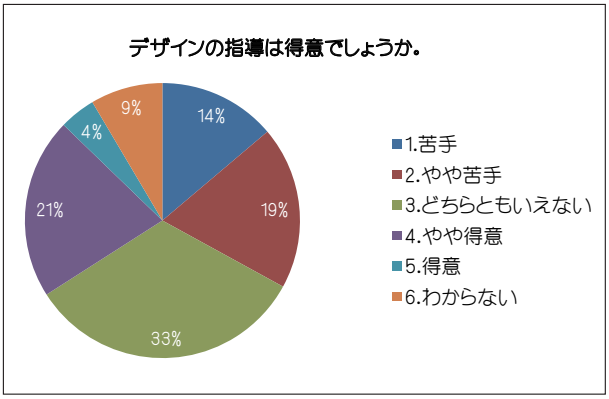


（図.４）彫刻の指導

５）デザインの指導

デザインを得意としているかについての質問である．（図.５）

デザインの指導については，苦手，やや苦手とする者の合計が33％であるのに対して，得意，やや得意とする者が25％となり，苦手とする者の方が多いという結果となった．またどちらともいえないという回答が33％となっており，ほぼ意見が３分割される結果となった．これは後述の工芸のアンケート結果と同様の傾向を示している．

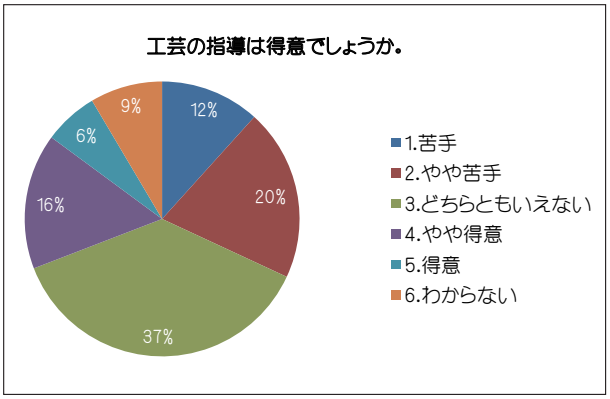


（図.５）デザインの指導

６）工芸の指導

工芸を得意としているかについての質問である．（図.６）

工芸の指導については，苦手，やや苦手とする者の合計が32％であるのに対して，得意，やや得意とする者が22％となり，苦手とする者の方が多いという結果となった．この数値は先に挙げたデザインの得意度とほぼ同数となっている．これは絵画や彫刻などが純粋芸術（Fine Art）であるのに対して，デザインと工芸が応用芸術（Applied Art）であることから，領域として類縁にあたり，区別しにくいため，同様の傾向を示したのだと思われる．



（図.６）工芸の指導

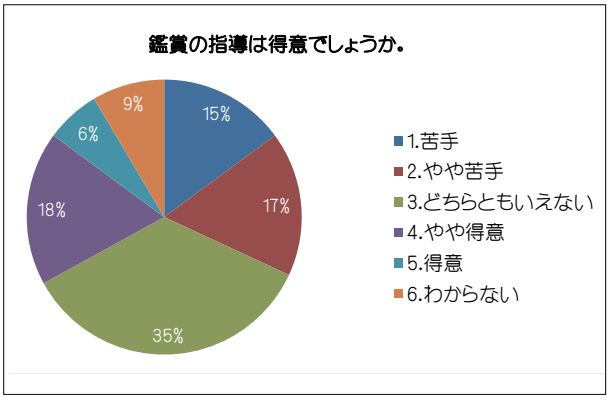
７）鑑賞の指導

鑑賞を得意としているかについての質問である．（図.７）

美術教育の領域において，鑑賞は表現と対を成す領域となっている．鑑賞の指導については，苦手，やや苦手とする者の合計が32％であるのに対して，得意，やや得意とする者が22％となり，苦手とする者が多い結果となった．

鑑賞教育の扱いについては，美術教育の領域を表現と鑑賞の２つに大別した時期から，鑑賞の授業を苦慮する教員が多いと考えられていたが，今回の調査では他の項目と比べ，特に苦手としているような傾向は見受けられなかった．

表現の得意度が得意と苦手共に29％であることを考えると苦手度が高いものの，美術教育の多くが表現の指導であるということを考えれば，妥当な数字だといえる．

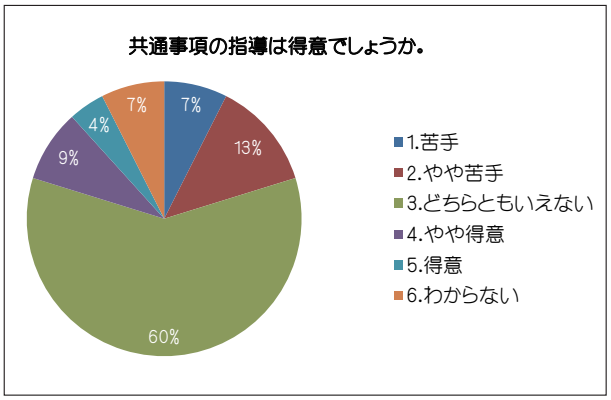


（図.７）鑑賞の指導

８）共通事項の指導

〔共通事項〕を得意としているかについての質問である．（図.８）

小論の目的である〔共通事項〕の指導については，苦手，やや苦手とする者の合計が20％であるのに対して，得意，やや得意とする者が13％となり，苦手とする者の方が多いという結果となった．またどちらともいえないという回答が60％と非常に高く，〔共通事項〕に対する苦手意識がない訳ではないものの，〔共通事項〕の標準的な指導のあり方が分からないという現状が伺える．

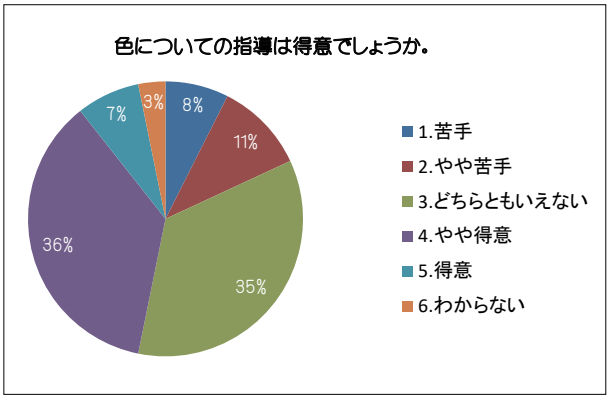


（図.８）共通事項の指導

９）色についての指導

色の指導を得意としているかについての質問である．（図.９）

色の指導については，苦手，やや苦手とする者の合計が19％であるのに対して，得意，やや得意とする者が43％となり，得意とする者の方が多いという結果となった．〔共通事項〕全体に関しては，苦手とする者が多いものの，色に関しては，全質問項目の中でも最も得意とする者が多い内容となっている．これは色の指導に関しては色彩学として学問としての体系が整えられており，理論的な教育内容および指導方法が確立されていることから，指導がしやすいといった理由によるものだといえる．

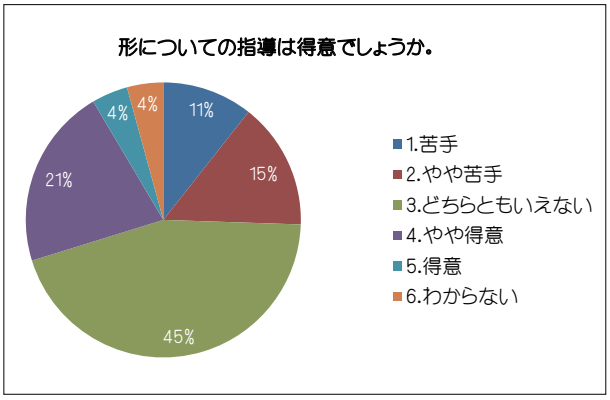


（図.９）色についての指導

10）形についての指導

形の指導を得意としているかについての質問である．（図.10）

形の指導については，苦手，やや苦手とする者の合計が26％であるのに対して，得意，やや得意とする者が25％となり，ほぼ同数となった．同じ〔共通事項〕である色と比較すると，得意としている者が少ないという現状が伺える．これは形についての教育が，色についての教育に対して未成熟であるためだと思われる．〔共通事項〕の指導において形についての指導のあり方は，今後の検討課題だといえる．

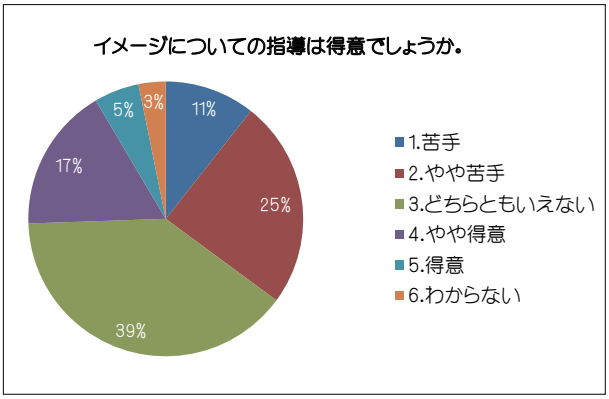


（図.10）形についての指導

11）イメージについての指導

イメージの指導を得意としているかについての質問である．（図.11）

イメージの指導については，苦手，やや苦手とする者の合計が36％であるのに対して，得意，やや得意とする者が22％となり，苦手とする者の方が多いという結果となった．イメージは「色からのイメージ」，「形からのイメージ」といったように，先に挙げた〔共通事項〕の色や形と複合的に扱われる内容であることから，〔共通事項〕の中でも最も難易度が高い内容だといえる．イメージについての指導のあり方は，形についての指導のあり方を決定した上で，検討を行うべきであろう．

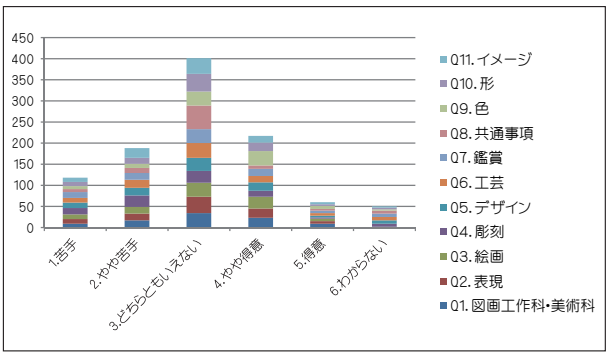


（図.11）イメージについての指導

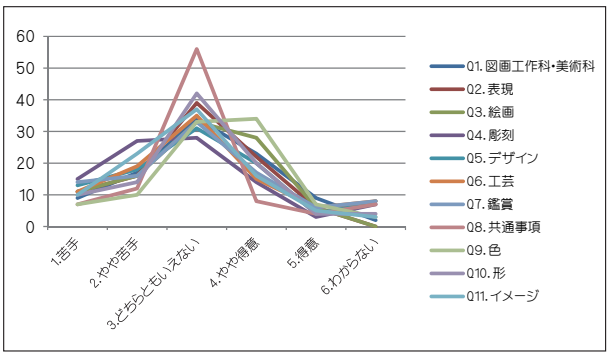
12）質問間比較

各領域の得意度についてまとめたものが（図.12），（図.13），（図.14）のグラフである．

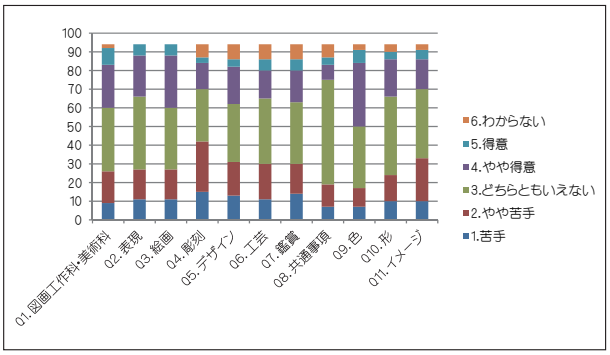
このグラフ（図.12）（図.13）を見ると，どちらともいえないという回答が最も多く，続いてやや得意と続くが，得意に関しては非常に少ないことが分かる．つまり美術教育は得意とする者が非常に少ない教科だと言える．また（図.14）をみると，〔共通事項〕において「どちらともいえない」という回答が，突出して多いことが分かる．



（図.12）得意度積算



（図.13）質問間比較



（図.14）得意度比率

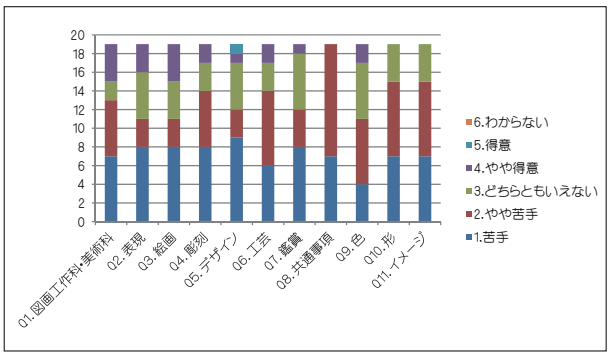
2　クロス集計による考察

〔共通事項〕の得意度との相関関係を考察するために，各領域の得意度に対してクロス集計を行った．クロス集計は〔共通事項〕を苦手，やや苦手とする集団20％と，得意，やや得意とする集団者13％に対して，得意度比率と，得意度積算を行った．

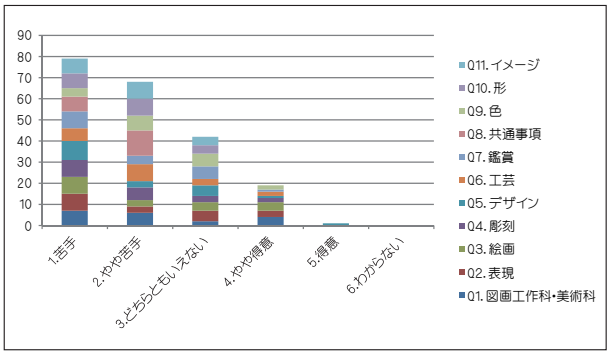
1）〔共通事項〕を苦手とする集団

〔共通事項〕を苦手，やや苦手とする集団20％に対して，得意度比率が（図.15），得意度積算が（図.16）となっている．

この〔共通事項〕を苦手とする集団は，概ねどの項目でも苦手とするものが多いが，その中でも形とイメージに関しては得意とするものが全くおらず，相対的に苦手とするものが，やや多いという結果（図.15）となり，より傾向を強く示している．また得意度積算（図.16）については，全体の得意度積算（図.12）とは異なり，苦手，やや苦手，どちらともいえない，やや得意，得意の順できれいな段階で減少している．



（図.15）得意度比率

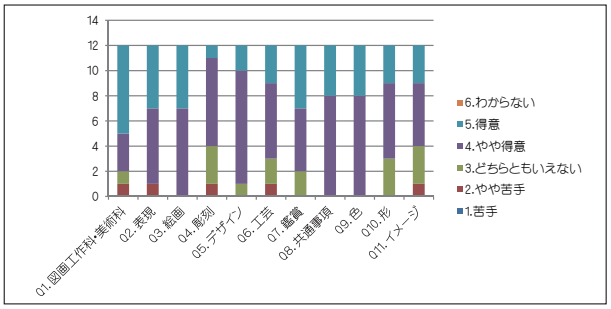


（図.16）得意度積算

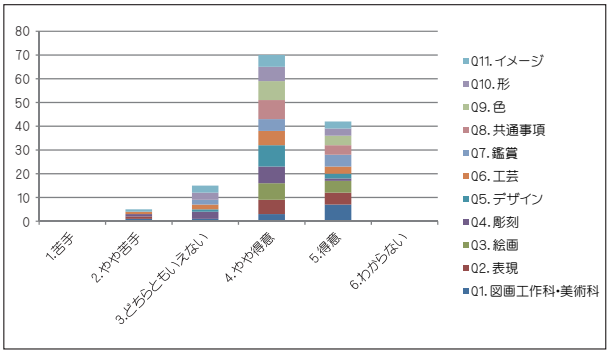
2）〔共通事項〕を得意とする集団

〔共通事項〕を，得意，やや得意とする集団者13％に対して，得意度比率が（図.17），得意度積算が（図.18）となっている．

絵画と色の指導については，全てが得意となっており，より得意度の傾向を強めている．また得意度比率（図.17）については，全体の得意度積算（図.18）とは異なり，苦手，やや苦手，どちらともいえない，やや得意，得意の順できれいな段階で減少している．



（図.17）得意度比率



（図.18）得意度積算

3　まとめ

結果，〔共通事項〕に関しては，苦手，やや苦手とする者の合計が20％であるのに対して，得意，やや得意とする者が13％となり，苦手とする者の方が多いという結果となった．また，どちらともいえないという回答が60％と非常に高く，〔共通事項〕が全くわからない訳ではないものの，〔共通事項〕の指導の標準が分からないという現状が明らかとなった．よって得意としている者が少ない現状からも，共通事項に関する指導法の必要性が，認められたといえる．

また色についての教育は，全質問項目の中でも最も得意とする者が多い結果となった．これは色の指導に関しては，色彩学として理論的な教育内容および指導方法が確立されており，指導がしやすいといった理由によるものだといえる．今後，〔共通事項〕の標準的指導法の確立に関しては，教員に対する理解が進んでいる色彩の教育を中心に開発を進めるのが望ましいと考える．しかし色彩の教育に関しては知的理解が先行し，基礎と専門が乖離しがちになるため，表現活動を通して感覚的に，基礎と専門をシームレスに融合させることが肝要である．

おわりに

今回は「美術の指導に関するアンケート」によって，実際に教育現場で働いている教員の美術教育全体に対する意識と，〔共通事項〕に対する意識の差違が明らかとなった．対象を教員に限定したアンケートということもあり，今回得られた回答の件数は少なかったため，クロス集計を行ったものの良好なデータは得られなかった．しかし美術教育の現状と，そこから分析された今後の課題は，概ね把握できたかと考えられる．今後は引き続き調査を進め，より多くの調査データを収集すると共に，今回の調査結果を基に「〔共通事項〕の標準的指導法」の開発を進めていく予定である．

本研究は科学研費 基盤研究（C）（26381224）の助成を受けたものである．

註

1）久保村里正，「2008年における学習指導要領・図画工作科の改訂」，『教育研究所紀要第18号』，文教大学教育研究所，2009，pp.42-43

2）文部科学省，科学研費 基盤研究（C）（26381224）

3）久保村里正，「美術教育における〔共通事項〕の歴史と意義 美術教育における基礎」，『教育研究ジャーナル』，文教大学大学院教育学研究科，2015，pp.17-20

4）久保村里正，「小学校図画工作科における〔共通事項〕の現状と課題―小学校図画工作科教科書からの分析―」，『文教大学教育学部紀要第49集』，文教大学，2015，pp.121-131

5）文部科学省，「初等教育資料４月付録 幼稚園教育要領 小学校学習指導要領―全文―」，東洋館出版社，2017，p.120